

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200403		
法人名	地域福祉研究所有限会社		
事業所名	グループホームえだくに		
所在地	福岡県飯塚市枝国439番地		
自己評価作成日	平成23年6月29日	ユニット名	竜王の家

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年7月25日	評価結果確定日	平成23年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、事業所として力を入れている点は、職員の質の向上及び地域の中での役割です。職員の質の向上は面から言えば、職員個人に何を学びたいのかを考えてもらい、年間の研修予定を決定する。研修の中には介護技術はもちろん利用者様の尊厳の問題、権利擁護の問題、身体拘束等々いろいろな分野が含まれる。また、利用者様自身が何を望んでいるのかを事例検討として取り上げ、代表者が指導者研修で学んできた「ひもときシート」を活用、職員全員でケア会議を行い、いろいろな観点から考え取り組んでいる。又、地域の中での役割については課題が大きいですが、運営推進会議や防災訓練、健康相談会、地域の行事への参加など私たちのできる取り組みをこれからも実施していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の中に位置しており、周りの建物と比べても違和感なく調和している。ホームで開催している夏祭りや作品展等に、近隣の方々が参加してくれたり、入居者の方々が地域の行事に参加することもある。そのような交流を図る事によって、地域の方々のホームに対する理解が深まりつつあり、最近では婦人会の旅行と一緒に出掛けたこともあった。また、入居者がホームに閉じこもることがないように、毎日の散歩をはじめ、近くの大型ショッピングセンターにみんなで買い物に出掛けたり、食事を食べに行ったりすることも多い。重度化や終末期を迎えている方の暮らしを支え、安静にすることだけではなく、積極的にみんなと一緒に出掛けることができるような働きかけを行っている。ホームの中でも、入居者の残存能力を活かしていけるよう、何にでも手を出すのではなく、自分でできることは自分でやらせてもらっている。調査当日も、食事の後の片づけをはじめ、床を雑巾で拭いたり、椅子を拭いたり等、入居者が積極的に行っていた。それぞれが自分の役割を持つことによって、ホームでの生活を満喫している様子が窺えた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根差して安心・安全な生活、元気で楽しい生活。家族と同様。」という地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を管理者と職員全員、入居者様と毎日唱和することにより実現に向けて取り組んでいる。	理念について毎朝唱和しており、全員で理念を共有するようにしている。毎日唱和しているので、今となっては入居者もその理念を覚えており、一緒に唱和している状況である。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し5年になり、町内の方達から挨拶をして頂く関係になっている。又、定期的にリサイクル活動、健康相談会、ゴミ拾い、敬老会への参加、老人会の方々のカラオケ教室の披露して頂く場にもなっていて地域の一員として交流している。	自治会長や民生委員が好意的であり、地域の行事や活動への参加を促してもらう機会が多い。逆に、ホームで開催する行事にも、地域の方々が参加してくれるような関係づくりが出来ている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内で行われている夏祭りや作品展などに来訪して頂き交流に努めている。また、在宅で認知症のご家族と同居されている方の相談などがあればゆっくと話しを聞き今後の事についての相談なども受けている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議では、地域との交流・連携や事業所の理解を育む場として会議を開き有効に活用している。防災対策のマップづくりなどには自治会長や民生委員の他、消防署の職員の方にも参加して頂き、地域の交番の方にも参加して頂き有意義な話し合いが行われている。	2か月に1回、入居者、家族、自治会長や民生委員、市職員の参加により開催されている。議題の内容によっては、消防署の職員や警察からも参加してもらうこともあり、現在はそれぞれの立場からいろいろと意見をもらいながら、防災マップ作成にも取り組んでいるところである。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の困難な事例への対応について、地域包括センター、市介護保険課と協働している。又、解らない事などがあれば介護保険課に問い合わせる等協力関係を築いている。毎月1回の介護相談員を受け入れており、交流会にも参加している。	何かわからないことがあれば、すぐに市の介護保険課に問い合わせしている。また、ケースワーカーとの関わりも深い。介護相談員の受け入れも行っており、率直な意見を出してもらえるような関係が構築されている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	佐賀県より講師を招いたり、行政主催の研修に参加したり、必ず職員全員で受講している。事業所内での対応等の検討をし防止ができています。	市で開催する研修に参加したり、ホーム内で研修したりしながら、身体拘束をしないケアを実践している。実際に、玄関や窓もすべて解放しており、職員の見守りにて対応している。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、毎年必ず研修を行っている。昨年は佐賀県介護保険総合ケアセンター シオンの園から講師を招き、入居者様のご家族も含め職員全員で研修を行い事業所内での虐待の見逃ごさないよう努めている。	

福岡県 グループホーム えだくに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度については、福岡県社会福祉協議会や嘉飯山地区協議会主催の研修に参加している。毎月の全体研修の中でも取り上げ職員全員の意識を高めている。裁判所へ訪問し手続きに関する説明を受けたり、司法書士との連携も行っている。	外部研修に参加したり、市からパンフレットをもらったりしながら、制度についての理解を深めている。実際に成年後見制度を利用している人もいて、利用に至るまで、家族の相談にも乗りながら対応を行っていった。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする際には必ず見学をお願いし、事業所の理念を正確に伝え理解して頂ける様に努めている。利用者やご家族が何か不安や疑問点がある際には十分な話し合いを行い納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回家族会を開催し、意見交換を行うと共に、利用者や家族の要望、相談等を受ける機会としている。時間がとれないご家族には個別に相談を受ける説明を行っている。利用者だけではなくご家族とのコミュニケーションも大切にしている。	利用者や家族が意見や要望を表出できる場として、年に3回家族会を開催している。参加できない家族も多いので、その方々には議事録を作成して送付するようにしている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行っているミーティングでは、代表者と職員全員が参加し、様々な意見の交換や伝達を行い施設の運営の中で反映させている。その他、ボーリング大会や食事会なども定期的に行い意見の出しやすい場をつくっている。	ミーティングを毎月1回行うようにしており、そこで職員の意見や提案を聞いている。またミーティング以外にも、年に数回食事会を開催したりボーリング大会を開催したりして、職員との交流を図っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個人面談を行い要望や働きやすい環境づくりを行っている。又、職員研修も広くりーダー研修参加までを目標とし向上できる支援を行っている。その他では看護師・ケアマネ・介護福祉士等の国家資格等も目標、支援を行っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、本人の働く意欲を尊重しており、年齢や性別等による排除は行っていない。本人のやる気と人柄、能力が見合っていれば採用し他の社員と分け隔てなく対応している。また、資格取得や研修参加を積極的に支援している。	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢、資格等はこだわらず、本人のやる気や人柄を見て採用するようにしている。また3ヶ月の試用期間を設けており、その間にホーム勤務に向いているかどうかを見極めるようにしている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	嘉飯山地区協議会や飯塚市主催の人権研修に参加しており、ケア会議等にて職員全員に伝達し、また具体的な事例をもとに話し合いを行う等意識を高めている。	代表の職員が外部研修に参加して、その内容についてホーム内で伝達研修を行うようにしている。普段の業務の中でも人権についてよく考えながら、日々の介護に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム えだくに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や能力に応じた研修を予定し、毎月様々な内容にて実施している。外部への個人研修の参加や内容での全体研修及び認知症ケアに関する研修も行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人のグループホームとの充実した連携を研修実施につなげている。また、市内のグループホーム・小規模多機能との交流もあり、情報交換や相談等も行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	理念にも掲げている「家族と同様」という関係性の中で入居者一人ひとりに寄り添い、耳を傾け、その方を受け止めるよう努めている。また、納得し安心して頂けるよう対応している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者だけではなく家族にも納得し、安心して頂けるよう不安や要望に耳を傾け来訪の際には、状態報告を行い、それに対して話し合いの場を設けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族が事業所の指針を内容についてしっかりと納得、理解して頂ける様何度も見学に来て頂いたり、話し合いの場を設けている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様1人ひとりに様々な役割を担ってほしいながら、又、職場と一緒に作業を行うことにより力を発揮する場面づくりを支援し達成感を共有している。例えば簡単な調理、洗濯、洗濯物干し、取り入れ、たたむ。タンスにしまう等日常的な生活の中で関係づくりをしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行している事業所たより「えだくに通信」にはその月の行事や職員のメッセージが記載されており、それにより本人の状態把握を行うことにより共に本人を支えて行く関係作りに努めている。又、1か月の状態観察、入浴、食事の量、バイタルチェック表、内服状況等を交付している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に訪問された際には、居室やホールにお話しができる環境をつくっている。ご家族との買い物や墓参り、又、法事や外食等を行う支援をお願いし実際に行っている。	以前の馴染みの場所へ行きたいとの希望があれば、なるべく希望に沿えるよう心掛けています。家族の協力も仰ぎながら、お寺さんにお参りに出掛けたり、お墓参りに出向いている。	

福岡県 グループホーム えだくに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	年間行事を多くとの入れており、利用者一人ひと りを把握しながら行事ごとの出し物を全員で 行ったり、レクリエーションは折り紙や歌、貼り 絵、書道等出来る事、又、作業では洗濯物干 しやたたみ、モップかけテーブル・椅子拭き 等、利用者様に応じた生活支援をしている。ま た、ひもときシートの活用で利用者様もよく理 解し利用者様同志がよりよい関わりができるよ う支援に努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたあとでもご家族が訪問されたり、相 談のお電話や他の入居者様をご紹介して頂い たりする。必要な内容に応じてサービス等の情 報支援などを行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	15時のおやつを初め、1日2回の散歩 の時等、入居戸との関わりの時間は多くあり、 1人ひとりの方と職員全員が会話し合う場が設 けられている。又、困難時本人との意思疎通 が出来る方は本人の意向に沿って、出来ない 方は状況把握を助案しながら行っている。	「ひもときシート」を利用しながら、入居者そ れぞれの思いや意向の把握につなげている。 入居者本人からの聞き取りが困難な場 合には、入居者の表情や仕草等を見なが ら、少しでも思いを汲み取ることが出来るよ うに努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	毎月1回1人の入居者の介護計画を順にひも といていながら行っており、今までの経緯や 今の現状、これからのこと等詳しく職員全員が 話し合う場が設けられ、本人らしい生活支援が 行える努力をしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	職員全員で入居者一人ひとりの暮らしのリズ ムや心身状態を把握できるよう毎月1回行っ ている。ミーティング時だけでなく、常に情報交換 し、業務日誌やカルテ等で把握に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ひもときシートを活用したケア会議にて入居者 様自身がより良く暮らすための課題を検討し、ス タッフ1人ひとりの意見やアイデアを反映でき る介護計画を作成している。	「ひもときシート」を活用して、入居者や家族 がどのような生活を望んでいるのかを、ケア 会議等で検討しながら介護計画を作成して いる。	ひもときシートやサービス担当者会議で、 入居者の情報を収集し、職員間で共有し ているが、それによって導き出されたニー ズが介護計画に上手く反映していない状 況である。それぞれの書類が持つ意味合 いを十分に理解した上で、介護の要となる 介護計画を作成していくことが望まれる。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとりの現状を記入していくカルテがあり、 日々の生活等について個別に記録しており職 員間での情報共有の1つとして活用。何か変化 があればそれを基に対応や計画の見直しを 行っている。		

福岡県 グループホーム えだくに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人グループホームとの連携により、合同行事(運動会、夏祭り、クリスマス会等)を行い多彩な地域や家族との交流の機会となっている。例えば利用者様が具合が悪く、今病院受診の必要性があれば即受診、落ち着きがなく外出外出してウインドウショッピング、畑の作業等、その時々への対応を心がけている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の活動、防災センターでの防災訓練、警察の方とのコミュニケーション、住民の方々との支援等があり安心・安全な生活が出来ている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の2週間に1回の往診があり、充実した連携体制が整備されている。日頃から職員が入居者の現状を把握し適切な医療を受けられるよう努めている。また緊急時の対応についても体制を整えている。	入居時に、入居者と家族の希望を聞きながら、ホームの協力医療機関を受診するか、元々のかかりつけ医を受診するのかを決めてもらっている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が毎日勤務及び訪問看護も受けている。お互いの情報交換を密に行い看護も充実している。毎朝、職員全員が申し送りを行い、情報交換を必ず行うことにより、適切な対応、素早い対応に努めている。それにより適切な受診や看護を受けられる環境づくりに取り組んでいる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院時には医療関係者との連携により早期退院への働きかけを行っている。また、退院後は元の生活ができるよう、かかりつけ医との連携を行い回復に努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医との十分な話し合いを繰り返し、本人、家族の意向を大切に支援を行っている。看取りも行っている為、安心して過ごせる方針を共有する為に医療関係者や家族、職員間での連携に努めている。	事前に重度化した場合や看取りの状況になった場合の対応方法についての意向を聞くようにしている。そして、実際にその状況になった際に、再度意向を確認しながら、その思いに沿ったケアを行っている。現時点においても、ターミナル期の暮らしを支援している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて職員間で対応の仕方についての情報交換をしたり、看護師や管理者からの指導を受けている。また、個別の研修に参加することにより、実践力を身に付けている。またマニュアルもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政や地域の自治会・消防署・警察署との連携を図り、定期的な訓練を行っている。また、防災センターでの入居者、職員全員の研修を行い、災害時への対応についてより良い体制作りを努めている。	消防署を含めた上で避難訓練を行っている。その際には地域の自治会長や民生委員にも参加してもらい、協力体制を築いている。また、防災マップも作成中であり、日頃から避難場所や避難経路等についても確認しあっている。	
<b>、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間研修の中に認知症の方々への対応や個人情報保護等の様々な角度からプライバシーの確保に関する内容を盛り込んでいる。記録等、個人情報については十分な配慮を行っている。	プライバシーの配慮については、研修を開催しながら、日ごろからそれぞれが十分に気をつけて対応していくように心がけている。また、個人のファイル等についても、カーテンで目隠ししたり、個人情報保護についての同意も取っており、十分に配慮されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の状況に合わせて、毎日2回のホーム周辺の散歩が日課として行われており、地域行事である「歩こう会」への参加を目標としたり、食材の買い物や外食等にも出かけたりもしている。個々の買い物等、その時々自己決定できる状況が日々多くある。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムを職員全員が把握することにより、その日の希望、状況に応じた心がけ、無理強いとならないよう柔軟な対応、配慮に努めている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔が保てるよう職員が十分に配慮し、入浴時の着替え等は、本人に選んで頂くことによりその人らしき身だしなみやおしゃれができるよう支援している。又、ジャスコショッピング等では自分の好きな物を選んで頂くよう配慮している。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物と一緒に出かけたり、食器洗いをする方やテーブル拭きなど一人ひとりに応じた力を発揮してもらっている。また、口腔体操時に1人ひとり好きな食べ物を行ってもらったりして好みを把握している。	入居者の能力に応じて、配膳や片付け、食器洗い等を手伝ってもらったり、職員と一緒に食事を作ってもらったりする等、食事が楽しみなものになるよう工夫をしている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物の量や栄養バランスについては、その方の体重や体調を見ながら状況に応じて対応している。また、一日の水分摂取量を記録していくことにより水分量の確保に努めている。		

福岡県 グループホーム えだくに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い、口の中の汚れや臭いが生じないようにすることはもちろん、摂食や嚥下りハビリティとして疾患予防やADLの維持向上に向けた取り組みを行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向け、2時間毎のトイレ誘導を行うことにより、排泄の失敗等を軽減し、排泄はトイレで行うという行為について認識も図っている。	水分摂取量と排泄量をチェックしており、適切な排泄が出来ているか確認している。また、安易にオムツにするのではなく、トイレでの排泄を優先している。定期的に誘導を行い、排泄の失敗が少なくなるよう支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの排泄状況を把握し、便秘の可能性がある場合にはその都度、働きかけを行い、また、水分・食事量・運動を行うことにより予防へとつなげている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週3回の入浴日の設定はあるが本人の体調や状況に応じて、曜日や時間帯、タイミングに配慮して柔軟な対応を行っている。	それぞれの希望に応じて、週3回入浴支援を行っている。また、地域の福祉センターや花立山温泉に出かけて行って、温泉を楽しむような機会も設けられている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	職員が入居者一人ひとりの把握を行うことにより、その時々状況に応じた対応ができるよう日々努めており、毎日安心して眠って頂ける様支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりが服用している薬に関して、職員全員がその内容を把握し、理解しており、服薬後の支援や症状の変化にも素早く対応している。内服薬の勉強会も行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの畑での野菜作りや洗濯物干し等、1人ひとりに合わせた力を発揮できる場面作りを支援し、心身の活性化につなげている。また、毎年参加している「歩こう会」や「敬老会」、施設運動会、夏祭り、クリスマス会等のイベントは入居者の方の楽しみの一つになっている。		



福岡県 グループホーム えだくに

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の利用者様も年々高齢化し、月1回の外出は楽しみにされている。それぞれの希望の場所選びは利用者様である。その他毎日2回のホーム周辺の散歩が日課として行われている。地域行事である「歩こう会」への参加を目標として頑張っている。暑さや寒さを肌で感じながら季節に応じた外出も入居者の楽しみの一つとなっている。	毎日の散歩をはじめ、近所のショッピングセンターに買い物に出かけたり、外食に行ったりと、日常的に外出の機会が多い。地域の旅行やウォーキング大会にも参加しており、ホームだけではなく、地域の方との交流も行われている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、近くのジャスコやスーパーに出かけ、上限の金額設定はあるが、入居者様の欲しい物を自由に選び購入して頂いている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と家族の関係を大切にすることも、定期的な関わり場をつくることはもちろん、電話や手紙を気軽にできるように支援している。また、家族にもそのことについての理解や協力をお願いしている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット間を自由に行き来することができ、見通しの良い広い廊下は、天候や気候により運動コースにもなる。又、中庭ではソーマン流などを行い入居者様同志のコミュニケーションの場ともなる。リビングは高い天井とともに開放的な空間となっており、思い思いに過ごせる環境となっている。	リビングは天井が高く、大きな窓があり、外からの明かりが差し込み、明るくて居心地のいい場所になっている。また、あちこちの窓を開放して風通しをよくしており、自然の風を肌で感じる事が出来る。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に配置されているソファや椅子は自由に過ごせる場となっており、2つのユニットを自由に行き来できるため、自由な時間を過ごせるようになっている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に配慮している筆筒や家具、布団、枕、時計等は使い慣れたものが持ち込まれており、本人が居心地よく安心できる環境にしている。	自宅で使い慣れた家具が持ち込まれており、それぞれが自分らしく過ごすことができる居室になっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に解りやすい様建物内部のトイレやキッチン、お風呂場、洗面所等は入居者様が過ごしているホールから見える位置に配置されている。自立に向けて取り組みやすい環境となっている。		